

市教委・「教職員の服務について」

文科省・感染対策「教職員が休みやすい環境を」

業務削減と、弾力的な勤務対応で出勤機会、在校時間の抑制を

コロナ対策の一部改訂

従来通りの服務扱い

市教委は12月10日に「学校の教育活動を再開するにあたって」で、一部補足や変更したものを発出しています。

その中で、保護者参加の授業参観や教職員の他校への参観を当面中止することなどに加えて、教職員の服務についても従来通りの対応が載っています。

下の表に掲載している以外でも、コロナ感染対策として、公共交通機関で通勤している教職員には、従来通り、時差出勤が適用できます。

大阪で、子ども学校に感染拡大

大阪市では、11月に小中高で、95人が感染、15の校園が休校しており、これまで最多の8月より、2倍に増加しています。

枚方でも、児童生徒の感染者が出ており、高校でクラスターも発生しています。

心がけにとどまらない教職員の感染対策こそ

市教委の「再開するにあたって」の文書では、教職員の感染対策について、「発熱など風症状のある場合は出勤せずに、体調回復に努めること。」としている。

ます。

文科省のコロナに関するマニュアルでは、これに加えて、「教職員が休みやすい環境を作ることも重要です。」としています。

市教委としても、教職員に感

染防止の心がけを強調するにとどまらず、教職員の業務を削減し、在宅勤務、勤務場所を離れての研修を柔軟に適用するなどして冬休みの出勤機会を減らすなどの積極的な取り組みをするべきです。

市教委・教職員の服務について	府費教職員	市費教職員
教職員(本人)の感染	職免	病気休暇
教職員(本人)が濃厚接触者に認定	職免	交通機関事故休暇
教職員同居家族が濃厚接触者に認定 (保健所・医師から外出自粛の要請を受けた場合)	職免	交通機関事故休暇
教職員または同居家族に感染の恐れがある場合 風邪症状が4日以上続いているなどにより勤務しないことがやむを得ないと認められる場合	職免	交通機関事故休暇
感染症対策に伴う学校の臨時休校等によりこの世話が必要になった場合 子が中学就学の始期に達している場合(支援学校在籍の子を除く)については、やむを得ない事由を記載	職免	交通機関事故休暇

府教委通知 臨時的な自動車等の通勤許可が特例的に認められます。

府教委から12/31まで、公共交通機関で通勤している府費教職員に「新型コロナ感染防止を目的に」を理由として、自動車通勤が臨時的に許可されることになりました。

学校内の駐車は、原則禁止ですので郊外の駐車場利用になります。通勤中の事故は通勤災害適用、再任用、府費講師も適用されます。

府費の非常勤・会計年度任用職員は部分的に手続きが変わります。

市費教職員には適用されず。

納得出来ないのが、市費の教職員にはこの措置が適用されないことです。

今回の措置は府教委からの通知で、府費の教職員適用。市費教職員は、市の職員のルールが適用されるために、違いが出ています。

枚方教組は、春の第一波のときから、市費教職員にも、府費教職員と同じ措置が適用されるように、市教委にたいして強く要求してきました。

同じ職場で、同じ職務についている職員間で、扱いに違いがあることは、不公平感を強め、モチベーションを低下させるものです。これからも、改善を求めて、力を合わせていきましょう。

吉村・大阪府知事の対応遅れ・誤算の指摘が次々

和歌山県知事からも、厳しいメッセージ

票に突入していた

コロナ感染者急増の大阪病床計画で「誤算」(毎日) 甘い判断・試算軽視・ピーク期読み違い…(読売)

「11月3連休後に事態が大きく変わっても、「静かな会食を」と弱いものにとどまった。」

この間のマスコミでは、大阪の吉村知事がテレビで「陣頭指揮を執る姿」が連日のように取り上げられる一方で、大阪の感染拡大、「看護師不足」「医療崩壊危機」の深刻さに、その対応の問題点、誤算を指摘することが増えてきています。

「11/18の府の対策協議会で12月上旬に重症者病床があふれる試算も、軽視された」と指摘。

対応が後手にまわり、肝心の「大阪コロナ重症センター」も看護師不足で、自衛隊、全国自治体からの期限付き応援で、一部開設がやっと。

対応の遅れから、重症者の急増に追いつかない実態が明らかになっています。

和歌山県知事からの「厳しい」メッセージ

和歌山県・仁坂知事はホームページで大阪府知事に対してメッセージを公表。その中で、「和歌山のICUを後回しに、大阪に看護師を派遣を決定」

「大阪府に対し、感染の拡大を防ぐためのアドバイスを何度か行ってきたが、改善に繋がらなかった」

「保健医療行政の機能強化を行わなければ、国民がいくら自粛しても感染はおさまらない」「もっと頑張れと司令官が言うだけでは失格です」と厳しい内容となっています。

「卒業式、在校生、来賓参加せずに実施」なぜ現場とびっしり発表?

12月11日(金)に、市教委のホームページに突然掲載されました。

「月曜日に子どもから残念そうに指摘され、返答に困った」事前に校長や現場の教職員が知らない状況で、計画や準備をしている現場の先生にとっても、校長さえもなぜこんな形で発表になるのかと、疑問や憤りの声が出ています。

このような教育行政の在り方が、現場のモチベーション、子供保護者の学校への信頼の点からも重大な問題があると、枚方教組は、夏の対市交渉でも市教委に対して、強く指摘してきました。市教委に対して、現場から声を上げ改善を求めていきましょう。